

令和2年10月27日

東京都大田区長 松原忠義 殿
東京都葛飾区長 青木克徳 殿
東京都公安委員会委員長 北井久美子 殿
東京都知事 小池百合子 殿
厚生労働大臣 田村憲久 殿
国家公安委員会委員長 小此木八郎 殿

(参考送付先)

東京都特別区(大田区、葛飾区を除く)区長 殿

特定非営利活動法人 シンクキッズー子ども虐待・

性犯罪をなくす会 代表理事 後藤 啓二(弁護士)

(千葉県野田市虐待再発防止委員会委員・東京都荒川区児童福祉審議会委員)

東京都大田区稀華(のあ)ちゃん虐待死事件、葛飾区4歳男児虐待事件を機に、
縦割りを排し要対協実務者会議で関係機関の全件共有と連携して活動する態勢
の整備を求める要望書

1 東京都大田区で、母親が6月5日から8日間、長女の稀華(のあ)ちゃん
(3歳)を自宅に放置して知人男性が住む鹿児島県に行き、稀華ちゃんを脱水・
飢餓状態に陥らせて死亡させたとして、母親が7月7日に保護責任者遺棄致死
罪で逮捕されました。稀華(のあ)ちゃんは昨年末に予定されていた3歳児健
診未受診で、大田区の担当者が2回母子に接触を試みたものの、連絡が
つかなかったにもかかわらず、そのまま放置されていました。本事案
は大田区の要保護児童対策地域協議会(要対協)の実務者会議でメンバ
ーとなっている関係機関で共有されていませんでした(そもそも警察は

実務者会議の構成員とはされておらず、一切知らされていませんでした。

また、東京都葛飾区で、母親と父親と思われる男が、本年 1 月に 4 歳男児に暴行を加えたとして 8 月 5 日、14 日に逮捕されました。男児は 1 月 27 日嘔吐とけいれんで救急搬送され、硬膜下血腫などと診断されています。また、男児は昨年 2 月には右腕を骨折し、保育園から虐待の疑いがあるとして葛飾区に通報がなされ、葛飾区の要対協実務者会議には報告され、メンバーである児童相談所(児相)を含む関係機関と共有されていましたが、母親が「自転車で転んだ」と説明したことから、警察にも連絡せず、特段の対応はとられていませんでした。警察は実務者会議のメンバーとはされておらず、警察には葛飾区からも児相からも連絡はありませんでした(警察には本年 1 月搬送された病院からはじめて連絡がなされました)。

2 いずれの事件も区が関与しながら(葛飾区の案件は児相も)、子どもを守ることができなかつた事件です。区が警察を含む関係機関と情報共有の上適切に連携して対応していれば、死亡等重篤な結果に至ることはありませんでした。

大田区の事件については乳幼児健診未受診自体が虐待の危険な兆候であるわけですが、その後「連絡がつかなかった」というのであれば、益々危険性は高まっているのですから、大田区の要対協実務者会議の場で、その情報をメンバーと共有し、多くの関係機関が連携し、多くの機関の多くの目で子どもの安否を確認し、親への指導支援を行い、子どもを全力で守る活動を行うべきでした。

葛飾区の事件については乳幼児の骨折はもちろん虐待が大いに疑われる兆候です。子ども、特に乳幼児は被害を自ら訴えられないのですから、保護者が虐待を否定したからといってそれをうのみにし、放置することは極めて危険です。直ちに調査(捜査)する能力のある警察に連絡し、虐待ではないかどうか十分に調査することが必要でした。そして、虐待と判明すれば逮捕等することにより子

どもの安全がより図られましたし、虐待と判明しない場合でも、要対協実務者会議で案件を共有し、多くの関係機関が連携し、多くの機関の多くの目で子どもの安否を確認し、親への指導支援を行い、子どもを全力で守る活動を行うべきでした。

3 (1) 厚労省に設置された専門委員会の「子ども虐待による死亡事例等の検証結果等について」第 16 次報告(2020 年 9 月)によると、2018 年度の虐待死事件(心中以外)51 事件の中で児相・市区町村に通告のあった 14 事件について、児相・市区町村が警察に情報提供したのはわずか 3 件にとどまり、児相・市区町村は多くの事件で警察と情報共有せず案件を抱え込んだままで死亡に至らしています。また、51 事件の中で児相・市区町村が関与した 21 件について、その案件が警察が 110 番等により把握し児相・市区町村に通報したものはありませんでした。また、21 事件の中で児相がかかわった 15 事件について、児相が「虐待との認識なかった」ものが 5 件(33.3%)、児相が「子どもと接触なし」が 4 件(26.7%)、「接触は一回のみ」が 4 件(26.7%)とされています。これらは、児相や市区町村が案件を抱え込んだままでは、得られる情報が少ないことから虐待リスクを正しく判断できず、かつ、家庭訪問等もほとんどできないことから、虐待死に至らしめてしまう危険性が高いことを示すものとなっています。

(2) そもそも、市区町村や児相という一つの機関でなく、多くの関係機関の多くの目で子どもを見守る方が、子どもは虐待からより守られることとは明らかです。上記第 16 次報告もそのことを強く示唆しています。そのためには、当たり前ですが、どの子が被害児童が関係機関が知らされなければなりません。

警察や学校、病院、民生委員等の関係機関は、それぞれの日常活動を通じ虐待されている子どもや虐待家庭と接する機会が多々ありますが、市区町村や児相からどの子どもが虐待されているかを知らされない限りは、目の前にいる子どもが実は家庭で虐待されている子どもでも、何ら有効な対応をとることがで

きないのです。

警察は 110 番等で虐待ではないか、DV ではないかなど住民から多くの通報が寄せられますが、その際に事前に児相や市区町村と虐待情報を共有していれば、現場に赴いた警察官は虐待家庭であることを念頭に注意深く対応できることから、親から騙されることなく、子どもを保護することができます。しかし、予めそのような情報を得ていない場合には、親から騙され、虐待を見逃し、救える子どもを救えない事態を起こしてしまいます(2014 年の葛飾区愛羅ちゃん虐待死事件はまさにそういう事件です)。

警察等の関係機関はその後も日常の活動を通じその子どもが虐待を受けていないか見守ることができますし、虐待の危険な兆候を発見すれば市区町村や児相へ情報提供もできます。さらに家庭訪問等による子どもの安否確認も一つの機関だけではごく限られた回数しかできませんが、多くの機関が案件を共有し、かかわることとすれば、より頻繁に子どもの安否を確認できることとなります。

市区町村や児相は、警察等他の機関と虐待案件を共有することで、警察等がその家庭につき保有する保護者や子どもの情報(たとえば DV、迷子、深夜徘徊、近隣トラブル等で対応したことがあるなど)の提供を受けることができることから、自らでは入手することができない有用な情報を多数得ることができるのです。その結果、市区町村や児相は虐待案件のアセスメント、虐待リスクの判断がより正確にできることとなり、一時保護等処遇がより適切に行うことができることになるのです。本来は、市区町村や児相が他の機関にお願いすべき事柄であって、それを拒むという対応は到底理解できるものではありません。

以上から、市区町村や児相は把握した虐待案件を抱え込むことなく、すべての案件につき警察等の関係機関と共有し、連携・協力して子どもを守る活動を行うことが是非とも必要です。

(3)言うまでもありませんが、市区町村や児相が「虐待とは確定できない」「軽微である」と判断した案件について、関係機関と共有する対象から除外するという対応は、決してとってはなりません。

今回、大田区、葛飾区ともそのように判断して、子どもを救えないという結果を招いているように、「これは虐待とは確定できない」「軽微である」など虐待リスクについて一つの機関が1回や2回の家庭訪問で正確に判断することなど、神ならぬ人間の身でそもそも不可能だからです。親は虐待を隠すことが通例で、子どもは自ら被害を訴えることができず、さらに、その後の親の経済状態、精神状態の悪化、シングル家庭であれば暴力的な同居男の出現等により急激に虐待の危険が高まることは珍しくありません。

深刻な虐待事件は、市区町村や児相が「これは軽微だから他機関と共有しなくても大丈夫」などと軽信し、警察等関係機関と情報共有も連携もしなかった案件で起こっているのです。児相や市区町村が子どもを守ることを最優先とする立場に立つ限り、すべての案件を関係機関と共有し、連携してベストの態勢で子どもを守らなければならないはずです。

(4)そして、すべての案件を関係機関で共有した上、いずれかの機関が子どもの骨折やけが、親の面会拒否、面会不能、乳幼児健診未受診等の虐待の危険な兆候を把握した場合には、直ちに他の機関にその情報を連絡し、暴力的・威圧的な保護者にも毅然と対応することが可能で、夜間休日を問わず緊急に対応することができる警察が速やかに家庭訪問し、子どもの安否を確認し、衰弱等している場合には緊急に保護するという態勢を整備しなければなりません。

最近でも、千葉県野田市心愛さん虐待死事件や千葉県市原市3歳児虐待死事件等、危険な兆候がありながら、児相や市区町村が警察等に連絡せず、虐待死に至らしめる事件が相次いでいます。これらの事件でも危険な兆候把握時に、警察等の関係機関に連絡して、直ちに家庭訪問していれば、子どもたちの命は救うことができたのです。

(5)以上、子どもを虐待から守るためには、児相や市区町村が案件を抱え込むことなく、

「全ての虐待案件につき関係機関で共有の上、関係機関ができる限り多くの虐待の危険な兆候を把握するように活動し、それを把握した場合には直ちに全ての機関で共有し、暴力的・威圧的な保護者にも毅然と対応することが可能で、夜間休日を問わず緊急に対応することができる警察が直ちに家庭訪問して子どもの安否を確認し、衰弱等している場合には緊急に子どもを保護する」

という態勢を整備することが必要不可欠です。大田区、葛飾区で、このような態勢が整備されていれば、稀華（のあ）ちゃんは虐待死させられることなく、葛飾区の4歳男児も昨年の時点で守られていました。

なお、荒川区では、既に、要対協実務者会議に区内の荒川警察署、南千住警察署、尾久警察署がメンバーとして入るとともに、把握した全ての案件が実務者会議で共有され、危険な兆候を把握した場合には直ちに全ての機関で共有の上、警察が直ちに家庭訪問して子どもの安否を確認し、衰弱等している場合には緊急に子どもを保護する、という態勢が整備されています。千葉県野田市においても、心愛さん虐待死事件を教訓として同様の態勢が整備されています。

4 そこで、大田区、葛飾区(及びその他の市区町村)、東京都公安委員会、東京都、厚生労働省及び国家公安委員会に対して、次のとおり要望いたします。

(1)大田区、葛飾区(及びその他の特別区、市町村)におかれては、要対協
の実務者会議のメンバーに警察が含まれていないところにあつては、警察をメンバーとするとともに、メンバーの間で、市区町村、児童相談所、警察等が把握した虐待案件をすべて共有し、メンバーが日常活動等を通じ被害児童が虐待を受けていないか、あるいは虐待が疑われる危険な兆候がないか被害児童を見守り、それが認められた場合には直ちに警察等の構成員に連絡・共有するルールとするとともに、暴力的・威圧的な保護者にも毅然と対応するこ

とが可能で、夜間休日を問わず緊急に対応することができる警察が直ちに家庭訪問し、子どもの安否を確認し、けがをしている、衰弱している等の場合には子どもを緊急に保護する態勢を整備することを強く要望いたします。

(2)東京都公安委員会におかれては、管内の全ての市区町村に対して、要対協の実務者会議のメンバーとして管内の警察署を参加させるとともに、上記(1)のルール・態勢を整備するよう、各警察署とともに働きかいたさげ、できるだけ早期の実現を図ることを強く要望いたします。

(3)東京都におかれては、児童相談所の把握する案件のごく一部のみ警察に情報提供してない現状を直ちに改め、大阪府、埼玉県、神奈川県、愛知県等多くの他府県の例に倣い、児童相談所、市区町村、警察が全ての虐待案件を共有し、連携して活動するというベストの態勢を整備することを強く要望いたします。

(4)厚生労働省、国家公安委員会におかれては、自治体における縦割りの弊害を排し、関係機関が連携して子どもを守ることができるよう上記(1)のルール・態勢を整備するよう全国の市区町村、警察を指導することを強く要望いたします。

5 東京都内では、今回の大田区の事件、葛飾区の事件のほか、目黒区結愛ちゃん虐待死事件、足立区玲空斗ちゃんウサギ用ケージ監禁虐待死事件、葛飾区愛羅ちゃん虐待死事件、江戸川区海渡くん虐待死事件等児相、市区町村が関与しながら警察と情報共有も連携もしないまま虐待死等を防ぐことが出来なかった事件が頻発しています。

全国では上記のような東京都あるいは千葉県で起こった虐待死事件を教訓として、縦割りの閉鎖的な対応が改められ、今や全国の半数程度の自治体で児相と市町村、警察等との全件共有と連携しての活動の態勢の整備が進んでいます。特に埼玉県では知事が先頭に立って取り組まれ、児相と警察との間

で全ての案件につきリアルタイムで情報共有する情報システムを整備され、格段に子どもを守ることができるようになるとともに、児相、警察の業務の効率化、省力化が図られ、負担軽減が実現しています。その資料を添付しておりますので是非ご参考になさってください。

しかしながら、肝心の東京都、都内市区町村では、これらの事件を何ら教訓とすることなく、縦割りで閉鎖的な対応を続けては、虐待死事件を引き起こし続けています。

児相、市区町村、警察との連携は、既に全国半数近くの自治体で既に取り組まれているように、知事、市区町村長のトップの決断ですぐにでもできることです。どうか知事、市区町村長には、政治家としてリーダーシップをお取りいただき、これまでの縦割りの閉鎖的な対応を改め、多くの関係機関が連携してベストの態勢を整備し、子どもたちを虐待からお守りいただきますようお願い申し上げます。

(本件連絡先) NPO 法人シンクキッズー子ども虐待・性犯罪をなくす会

代表理事 後藤啓二(弁護士)103-0025 東京都中央区日本橋茅場町
1-9-2-314 090-2563-5206 fax 03-6317-5298

kgoto@ab.auone-net.jp

<http://www.thinkkids.jp/> <https://facebook.com/thinkkidsjp/>